



No.68

協会だより

Japan Tourism Facilities Association



10月

発行 / 社団法人国際観光施設協会
総務委員会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
2-8-5 多幸ビル九段2階
TEL03-3263-4844
FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp
URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2008年10月1日

月曜日、文化施設は休みです。

副会長 平田 純一

日経新聞に7月から9月にかけて「観光立国への挑戦」という長期連載がありました。その13回目(2008.8.7)に「自立的な観光」というタイトルで、次のような記事がありました。

「二十世紀の国内観光旅行は 団体旅行 名所見物 周遊という三つの要素で成り立っていた。」

「こうした団体旅行は、旅行者や受け入れ側の観光地域からみると、旅行会社の提供商品に身をゆだねる『他律的観光』といえる。」

「一方で1990年代に入りインターネットが普及し始めると、旅行者が自ら旅行の企画を考案するケースが増え、自立的観光へと動き出した。」とあります。

そこで今年の8月、東北地方の文化施設を自律的に観光してみようと企画し、日・月・火・水と3泊4日に出かけてきました。

もちろん自律的観光だから、事前にどこにどんな文化施設があり、いつが休館日かも知った上での承知の旅行です。今回は月曜日が県庁所在地でしたが、本当

にびっくり、どこもここも休館です。承知の上での旅行ですから文句は言えませんが、実際にその施設の前に立つと腹がたちます。しかし、外国からの観光客に月曜日は観光はダメとはいえないでしょう。

文化庁長官の青木 保氏は「21世紀は各国が文化の力で勝負する時代でもある」との考え方です(2008.8.23 朝日,文化欄)。

劇作家の山崎 正和氏も「文化の貧しい国には観光はもちろん、科学技術やデザインの振興もかつてなかった」とのことである(2008.7.27 読売,地球を読む)。

このことは裏を返せば、「観光を振興するなら文化の豊かな国でなければいけない」ということでしょう。

しかし、ある地域の文化施設が一斉に休むというのは、明治以来100年以上の慣行でしょうから、A博物館は月曜、B美術館は火曜、C歴史的建造物は水曜というように休むことは、現代日本では無理かも知れません。

技術委員会報告

技術委員長 鈴木 裕

技術委員会にはホテル都市分科会・旅館観光地分科会・インテリア分科会および観光交流空間のまちづくり研究会があります。今年は「景観と観光」をメインテーマに各委員会がサブテーマを設定して活動しております。

ホテル都市分科会は景観を形成するハードの研究、旅館観光地分科会は温泉のまちづくりフォーラムを芦牧温泉で行っております。インテリア分科会では保存すべきインテリアを設定し調査しており、まちづくり研究会では5月に秩父市でフォーラムを開きました。

また、10月1日の観光庁発足および景観緑3法施行3周年の機をとらえ、当協会では11月25日を「景観と観光」の日とし、午前中は「観光交流空間のまちづくり研究会」の冬会を開催し、国土交通省の観光基本方針を伺い、その後会員の皆様の報告によるまちづくりの情報交換を行います。その中で「観光に役立つ景観」のヒントが見つければと考えています。午後には当協会とNPO法人美し国づくり協会の共催による景観シンポジウムを開催します。テーマを「景観から風景へ」と題し景観を新たな観光の魅力づくりとする方向を探れればと考えています。観光庁長官にご出席頂く予定で、東京大学の西村幸夫教授を中心に仙台市の梅原市長、(財)日本交通公社の小林英俊常務理事、美し国づくり協会の進士理事長および当協会の村尾成文会長、涌井史郎副会長によりパネルディスカッションをおこなう予定です。

その後少し早いのですが、懇親会を兼ねた当協会の忘年会を行い「景観と観光」についてのより深い情報交換ができれば幸いと考えておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会は、今年度から造園関係の各社 東武緑地、内山緑地建設、西武造園、東光園緑化、石勝エクステリア、そして日比谷アメニスと一緒に活動をはじめました。異業種交流として新鮮な空気のなか、交流をかさねております。建築同業だけの交流とことなる収穫を各社とも感じております。

東京ドームミーツポートの見学では、屋上緑化、劇場椅子、そして全体設計と部会の構成会社の各担当が当事者ならではの説明をされ参加者に感銘をあたえました。

健康増進をテーマとしたグループは、造園会社の携わっているゴルフ場の見学(もちろんクラブ持参)や郊外の観光地として特長のある君津グリーンセンターの見学(パーベキュー付)を通して、観光空間の開発コンセプトを伺います。今後は建築と緑化環境との接点に焦点を当てた交流を予定しています。

設備部会所属の皆さま 設備WGへ登録・参加を!!

設備部会は、所属する会員の全員参加を目標に下記のワーキンググループを立上げ、部会活動の活性化を図ることとしました。設備関係者だけでなく観光に携わる関係者との交流と設備関連情報の共有が可能となります。

・「保全WG」: 非効率運転による光熱水費の増大はホテル・旅館経営者の一番悩ましい問題の一つです。素人でも設備機器の適切な維持管理ができるように、設備機器の取り扱い方や異常発生の予知などについての易しいマニュアルを作成します。

・「環境WG」: 洞爺湖サミットも契機となり、ホテル・旅館も「環境への配慮」なしでは済まなくなっています。現在の地球温暖化防止に向けた環境動向の知識習得・認識を深めるとともに、関連情報を発信します。

インテリア部会の方針と活動

インテリア部会は、会員相互の交流を基本に、最新の施設・情報等の共有による所属会員の知識向上とコミュニケーションの強化、公益目的である協会の発展と観光施設・空間創りの向上に寄与すべく活動方針を定めています。本年度は、施設見学G、セミナー開催G、企業見学会G、新情報発信Gの4グループを編成し活動を行っています。所属部会員は各グループに所属し、各人の持つ情報・知識を集約し、グループ協議で上記目的に沿った企画を立案・実行しています。

各企画につきましては、別途詳細をご連絡しますので、多くの皆様の御参加をお待ちしています。

インテリア部会セミナー 予告

HOTERES JAPAN 2009 開催のご案内

第37回 国際ホテル・レストラン・ショー - は、2月24日(火)から27日(金)まで、東京ビックサイトで開催が決定しました。

今回もタイムリーなテーマでセミナーを開催します。セミナーのテーマを「旅館の衰退を食い止める」とし、パネルディスカッション形式で行います。

タイトルは「食に鈍感な旅館よ、さようなら」です。現在旅館が抱えている多くの問題点の中から、泊食分離の販売と運営について、旅館経営者と専門家による議論を展開します。

事務局からのお知らせ

<忘年交歓会 開催予告>

景観シンポジウムの終了後の交流会を兼ねて年末恒例の忘年交歓会を11月25日(火)「ホテルグランドパレス(九段)」にて開催されることが決まりました。

詳細は別途改めてお知らせします。

<マネジメント会員名簿について>

今回マネジメント会員の名簿を発行したのは、マネジメント会員相互の交流や当協会会員の交流に役立てていただくことを目的としています。マネジメント会員の施設利用の際のガイドにもお役立てください。

交流部会第93回「ゴルフ会」案内

平成20年秋のゴルフ会は11月12日(水)に春と同じ埼玉県の名門「嵐山カントリークラブ」にて行います。組数10組、スタート時間8:24(OUT、INとも)概算費用は約¥20,000(キャディフィー、諸経費込み)会費¥4,000の予定です。春の大会は残念ながら天候に恵まれませんでした。今回は晴天と念じて沢山の会員の方々の参加をお願いいたします。

♥ 編集後記 ♥

観光庁の発足を記念して、11月25日、協会の景観特別委員会が中心となって主催する景観シンポジウム「景観から風景へ」が開催されることになりました。このシンポジウムは、国土交通省を初めとして日本観光協会・日本ホテル協会等、これまでになく多くの関係団体のご後援をいただくことができました。

協会では、早くから景観特別委員会を設けて、これからの観光地の発展のためには観光施設の整備と共にそれを取り巻く環境の整備が不可欠との観点から、景観についての研究を進めてきましたが、この度このようなシンポジウムを開催できますことは、協会のこれからの役割を内外に示すこととなり、事業の更なる発展のために大変喜ばしいこととあります。

このシンポジウムが実りのあるものとなりますように、全員で協力してまいりたいと思います。Y.K

インテリア部会 セミナーG企画

講師: 種田陽平 氏
「THE 有頂天ホテル」の美術監督
日時: 11月10日(月) 16:00~
会場: 松下電工(株)
東京本社 ホール

インテリア部会 新情報発信G第1回研究会

講師: 三橋美穂 氏
快眠セラピスト テーマ「睡眠」
日時: 10月28日(火) 16:00~
会場: 松下電工(株)
東京本社 ホール